

東京都の実効再生産数はすでに 25 日間上昇傾向を続けているという

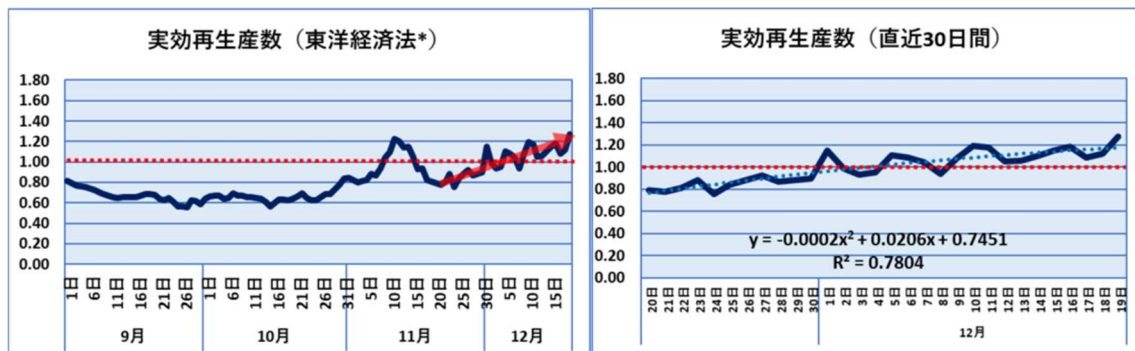
事実！

- 月曜日 - 20 12 月 2021

このところ、感染者数の少ない状態が続いていましたので、かつて毎週のようにご紹介していた人流と実効再生産数の数値のご紹介をやめていました。久しぶりに今日はこのご紹介をします。というのは、実効再生産数が、11 月 24 日以降ずっと上昇を続けており、直近 30 日の近似式からも今後の増加が予測されるためです。この背景にはオミクロン株の影響が想像されはしますが、いまだに市中感染については、公式に認められていないようです。

今日の東洋経済法*による実効再生産数の推移と直近 30 日の実効再生産数とその近似式のグラフをご紹介します。

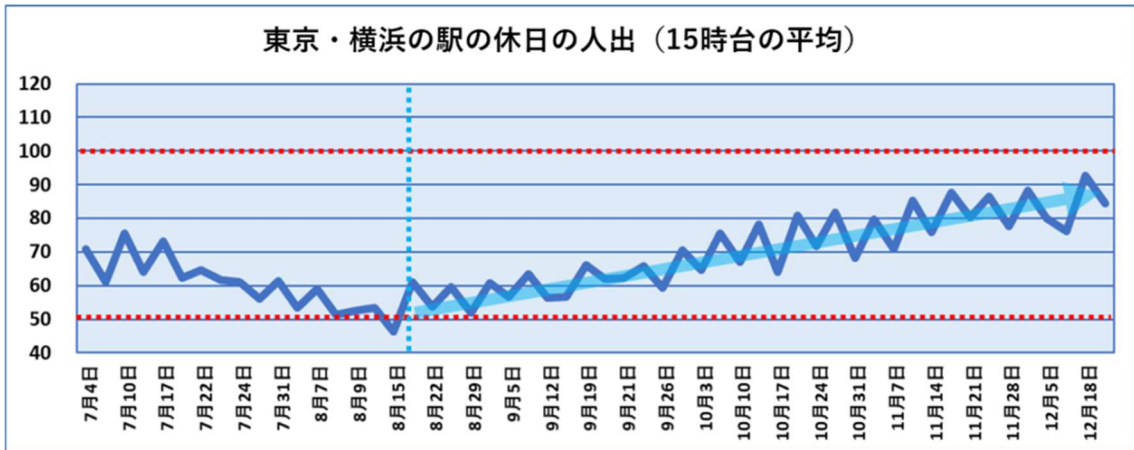
*計算式は「(直近 7 日間の新規陽性者数 / その前 7 日間の新規陽性者数)^(平均世代時間 / 報告間隔)」。平均世代時間は 5 日、報告間隔は 7 日と仮定。リアルタイム性を重視して流行動態を把握するため、報告日ベースによる簡易的な計算式を用いている。精密な計算ではないこと、報告の遅れに影響を受けることに注意。モデルと監修は現京都大学・西浦博教授。



左のグラフは、9 月以降の実効再生産数の推移を示していますが、11 月半ばに一度再び 1.0 を超えた期間が少しだけありましたが、その後再び下降し 1.0 を下回っていました。しかし、11 月 24 日以降は再上昇に転じあとは昨日に至るまで 25 日間増加傾向が続いています(赤い矢印の部分)。

右のグラフは直近 30 日の推移ですが、明らかな上昇傾向が継続しています。このグラフで近似式を計算させるとわずかに多項式(2 次式)近似式の R2 乗が線型(1 次式)近似式の R2 乗を上回りますが、どちらの式を使っても当面は上昇を続けることには変わりありません。つまり当面新規感染者数は増加するという予測になります。

一方で、人流の方も増加の一途を辿っています。手持ちのデータは休日の午後 3 時台のデータしかありませんので、その推移からの判断に過ぎませんが、水色の縦線を引いた 8 月のお盆休み以降、人流は増加傾向であり、まもなく感染拡大前の 2020 年の 1 月～2 月の平均値に到達する勢いです。

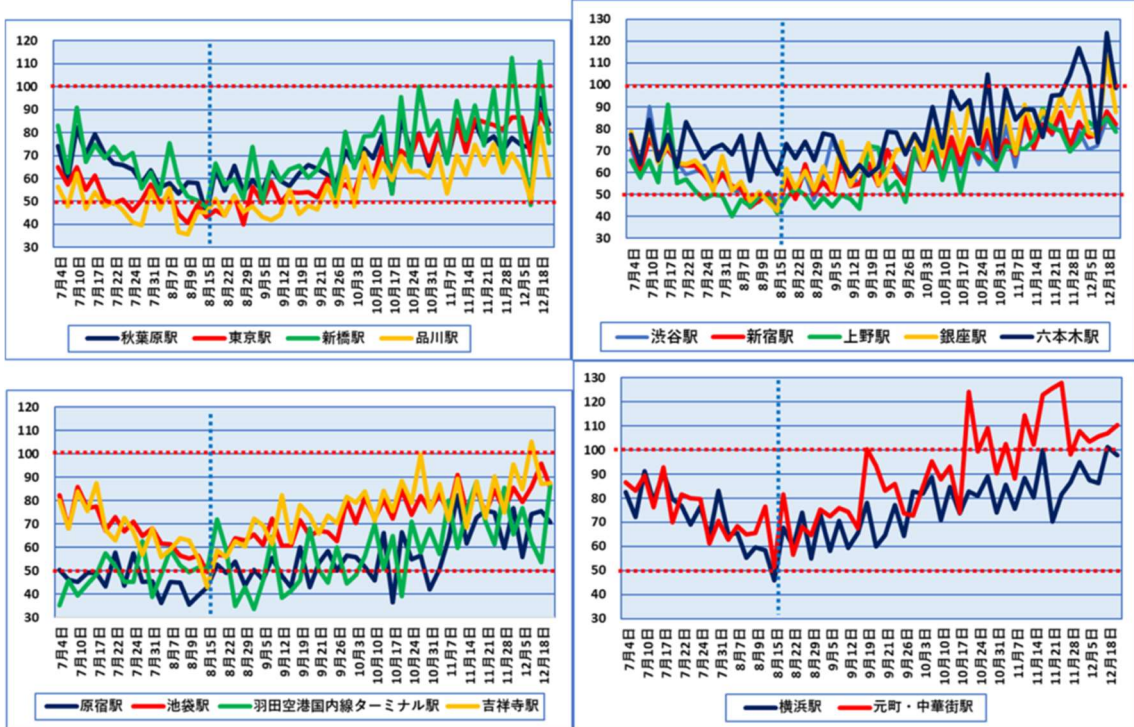


感染拡大前2020年1月～2月の休日の平均値 = 100とした時の指数で表示（アグープ 特設サイトから引用グラフ化）

個々のデータの推移を下記に示します。場所によってはすでに感染拡大前を超えてきている場所もあります。政府や地方自治体からの年末年始の帰省抑制の呼びかけもこうした状況を踏まえてのことと思われる。

東京・横浜の駅周辺の休日の15時台の人出

感染拡大前2020年1月～2月の休日の平均値 = 100とした時の指数で表示（アグープ 特設サイトから引用グラフ化）



オミクロン株の感染者も着実に増加しているようですので、第6波を現実のものとして対策と準備を覚悟すべき時がきていると思います。